山本 喜則 教授

【やまもと よしのり】
東京教育大理学部応用数理学科卒業。京都大学工学博士、柔道部顧問、いまも学生とたまに練習します、「還暦過ぎた人でそんな厚い胸板の人いないですよ」と言われて気を良くし（笑）。

●情報基礎
●情報処理Ⅰ・Ⅱ

少し先に視点を置いて、「次」を考える。

景気が悪くなると途端に公務員希望者が急増したり金融系が増えたりといった動きとなって現れる。こうした「右往左往」は長い目で見てどうなのだろうか。卒業生には、良く知られた情報系メーカーで努力を続けて今では海外拠点の責任者になりつつある例、大学の教員になっていく例、起業して世界に名だたる情報系企業主催講習会の講師を若くして務めている例、と景気が悪かろうが光っている者はしっかりいる。

一生の大事なことである就職先を考えるのに、あちこち調べて幾つもチャレンジするのは自然だが、これはしかし「右往左往」とは違う。「右往左往」は自分の確固とした考えがなく、周りに流されてすることである。人生でこれをやるといつも人の後塵を拝することになる。何故なら、自分のところに影響が顕れた頃には問題はずっと先に行ってしまっているからである。間に合わない。

常に少し先に視点を置いて、次に何が起こるか考えよう。雑音に悩まされても、その中から本当に役立つ情報を探そう、これが上手くできるかどうかは実は大変難しいのである。そして自分は何をやりたいのかじっくり考えてベストでなくともベターの選択ができれば納得がいく。将来の布石は抜かりなく打ちたいがこれもベターで良しとしよう。株屋の世界に、「魚の頭と尻尾は他人にくれてやれ」という諺があるが、意味分かるかな。

オーケー、今回の話はここまで、そうそう最後に、ゼミをどこにするかでも右往左往する学生がいるが、これについても同様。周りに流されて特定のところに集まり過ぎて入れず悩むなんてバカバカしいことだよ。ゼミは将来の勉強のきっかけに過ぎないのです。いろいろなことを学んでみよう。情報系が好きだから勉強するのは大いに結構、しかしそれしかやらないのは「オタク系」と言って少々バカにされるし、社会であまり役に立たない。好奇心は若い時の特権かもしれない。どんどん新しいことにチャレンジ！